

---

# 願いをこめた鶴

優喜 n a n o /

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

願いをこめた鶴

### 【Nコード】

N1337K

### 【作者名】

優喜nano/

### 【あらすじ】

病院に入院している女の子。

彼女は『退院したい』という願いを込めて、毎日1羽の鶴を折る。

1000羽目が終わる頃には、退院したい。

それが彼女の願いだった。

**（前書き）**

ノリで書いてしまいました。  
思いついたので……。  
ただ、文章にするのって大変だね。

「はあ。」

土砂降りの外を見てそつとため息をついてみる。

下のほうでは赤や青など、花にも見える傘達が楽しそうに踊っている。

大きかったり、小さかったり……。

窓のガラスから傘をなぞつても、虚しさは増していくばかり。

土砂降りになつていゝ外と、無機質な音しか響かないこの部屋では見えていゝ世界が違ふ。

いつの日かこの病院から出られると信じて、鶴を折っていた。

毎日1羽ずつ丁寧に願いを込めて。1000羽折れる頃には退院できるものだと思つていた。

ただ999羽目をおつた今日。入院した日より何倍も雑で汚い鶴。入院したときの希望に満ち溢れた鶴とは比べ物にもならない。

日に日に希望が薄れていく鶴は、窓際の袋へと放りこまれていった。パンパンに膨らんだ袋に、今日折つた雑な鶴を投げ込む。

明日で1000羽目。

もう病院からでられることがないのだから。

入院して幾日かたつたとき。

鶴を気持ちよこめて丹念に折っていた。

そのとき。不意に聞こえてきた低い低い声。

「お嬢さんは病院の外にもう出ることはできないと思います。

最善を尽くしてありますが……悪化しています。」

やがて聞こえてきたすすり泣き。

きつと廊下で話されているのだ。

でもまるでそこにいるかのように、両親の泣き崩れる姿が想像できる。

折り紙がにじんで見えなくなり、やがて自分の手や折りかけの鶴に頬をつたって落ちる。

丁寧に折っていた鶴に、私の涙が何粒か落ちてにじんだ。

だから……私はこんなことをしていても無駄なんだ。

どうせ、できることはできないんだから。

折り紙にどんな願いをかけても所詮、紙切れ。

明日、私と共にここから飛び立つはずだった鶴は飛び立てない。

私はここに一生いることになるから。

その夜、毎日折ってきた鶴を抱きながら寝た。

一緒に明日、飛び立てないのだからせめて夢の中で鶴と飛びたい。

そんな思いがどこかにあったのかもしれない。

次の日の朝。彼女の息はとまっていた。

ただ、鶴と一緒に眠る彼女の顔はとても楽しそうで、空を飛んでいくようだったと言う。

1000羽目の鶴を折る前に、彼女は無限の可能性を広げる空へと翼を広げ、

自分が折った鶴達とともに飛び立っていった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1337k/>

---

願いをこめた鶴

2010年10月17日07時38分発行